

三協化学工業

トヨタ自動車豊田章男社長が先週、エコカーの大幅増産を表明した。エコカーには車体の軽量化などのためガソリン車以上に多くの樹脂材料が搭載されており、今年には樹脂関連の業界の動きも活発だ。

「自動車分野への本格進出」を業容拡大の柱に掲げる大阪府柏原市の樹脂着色剤メーカー、三協化学工業も、そんな自動車業界の新たな潮流を注視している一社だ。ここ5年ほどで総額6億円以上を投じるなど、設備増強に積極的な梅田倫宏社長は「品質管理体制を

品質管理体制などを強化

強化するため、最新鋭の各種分析機器を思い切って導入した。また、製品への不純物の混入を防ぐため工場内のコンタミ対策も進めており、マスターバッチでも最高レベルの品質が求められる自動車市場開拓の起爆剤とした

「着色剤やアンチフロッキング剤などの添加剤を樹脂に混ぜ込みマスターバッチ化するた

めには、高度なコンパウンド技術が不可欠だ。1965年創業の

「コンビニ向けの食

体となり、このようなシビアなニーズに対して着色剤だけでなく、さまざまな添加剤の配合などを提案するきめ細かなサービスで応えている(梅田社長)。

自動車市場の顧客開拓でもこのノウハウが威力を発揮しそうだ。

前期は過去最高益を達成した同社。車載関連の共同開発プロジェクトも始動しており、来期はさらに飛躍が期待できそうだ。

自動車分野進出に本腰